

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101234
法人名	医療法人 恵光会
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原
所在地	福岡県福岡市南区柏原1丁目2-46
自己評価作成日	H25年 10月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成25年11月27日	評価結果確定日	平成25年12月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である代表者が、病院退院後の高齢者が安心して生活ができるようにとの思いでホームを立ち上げました。今年で10年を迎えました。  
 ビル形式の所が多い中、2階建ての施設で、庭にはテラスがあります。 藤棚  
 やキーウィフルーツの木があり、アットホームな感じです。  
 又 家族の方がいつでも来所しやすいよな雰囲気づくりをスタッフ間で共有している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ライフエイド柏原の入居者は、地域住民の一人として地域の運動会に参加したり、社会の一員として選挙に出向くなど、自宅と変わらないような暮らしができています。また、入居者全員が孤立することがないように、定期的にドライブをしたり、福岡タワーへ行ったり、中華店などで外食をするなど、楽しめるように支援している。母体病院との協力体制も取れており、入居者・家族が安心できるような事業所となっている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の理念「地域住民の1人としてその人らしく暮らし続けられる事を支援します」を掲げみんなで共有し選挙等希望があれば同行し地域のかたに支えられながら生活している。	ホームの理念は、毎日職員全員で唱和している。入居者一人ひとりにしっかり向き合い、身体や生活の状況に応じて、地域住民の一人として生活できるように支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの祭りにチラシ配り参加をお願いしたり、地域の運動会にも参加している	町内の運動会に参加したり、ホームの秋祭りへの参加を呼びかけるなどしている。また、どんたく隊の慰問や河川掃除などの季節行事に参加しながら、地域の方々と交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体が医療法人であり2ヶ月1回介護、医療相談を行っている。又 推進委員会で、成年後見制度のDVDをみんなで視聴し勉強する		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表や町内会長 副会長 民政委員 近所の方 いきいきセンター福岡第7 法人関係者 管理者 職員等の出席により2ヶ月1回開催している。災害の際の避難場所としてお互いに提供の確認をしたり医療介護の相談会も同時に行っている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。会議では、ホームの状況や災害時の対応、介護相談だけでなく、参加者の意見を取り入れ、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いきいきセンターの方に相談しDVDを借りたり推進会議で意見を聞いたりしている	更新時や制度について分からないことがあれば、区役所へ出向き相談している。地域包括支援センター担当者を通じて情報を得たり、困難な事例を相談するなどし、適切な助言を聞くように努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在拘束は行っていない	定期的に研修することで、身体拘束の弊害についての意識向上に努めている。徘徊がある方には、さりげない声かけや、一緒に近くを散歩したり、買い物に誘うなどして、抑制・拘束しないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修会で、研修会に出席した方の報告を聞いてみんなで共有し、またホーム内の研修会に出席できない人は、報告書を読んで防止に努めています。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	説明資料を準備し契約時説明するとともに必要時には支援できるようにしている。ホーム内の研修会や介護系勉強会などで勉強し又研修の出席者の報告を聞いて共有している。	年に1回、外部研修会に参加し、制度について学ぶ機会がある。参加できない職員には伝達研修を行い、全員が理解している。現在、入居者の2名が制度を利用していることで、段階に応じた活用についても周知している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更時説明、納得いただきサインを頂いてます。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム研修会を月1回開き、意見交換をしています。	管理者やユニットリーダー、職員は、入居者・家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見箱を設置していると共に、2年に1回家族へアンケートを郵送し、些細な意見でも抽出できるように取り組んでいる。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアプラン作成時、家族の方の意見を聞いています。また本人の希望があればできる限り対応したいと思います。	日々のケアの中で、改善点やアイデアなどがあれば日常的に職員間で意見交換している。ホーム研修会で、入浴時のリフトバス購入や食材購入方法などについて検討し、業務改善を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を年3回書いてもらい毎回確認する。又日々働きながら状況を把握して毎月のホーム内研修会で業務改善を行っている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体で募集採用しているが年齢や性別等の条件はない採用は利用者のかかわりの中で職員の特技や趣味を日頃の業務に生かせるようにしている	採用年齢は20～60歳と幅広く、性別や経験にこだわらず採用している。就業後も資格取得の機会を確保できることや、経験・得意なことが季節行事などで活かせるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内の研修会で研修会に出席した人の報告を聞いてみんなで共有し、法人全体で接遇目標を設定しホーム内に掲示。朝礼時目標を唱和しスタッフそれぞれが業務の中で遂行している	年に1回、外部研修に参加し、ホーム内で伝達研修を行っている。毎月、接遇や人権に関する目標をホーム内に掲げている。朝礼時に目標を唱和し、ケアや日常生活を共にする中で達成できるように努めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年3回自己評価をしてもらい本人の主張管理者から見た評価をし観察指導している。2ヶ月1回系列施設の勉強会を開催 外部研修の案内で必要な研修に参加し内部に伝達。新人は教育係があり新人教育プログラムに沿って指導を実施し1か月 3か月で評価を行っている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が外部研修に参加した際他の事業所と情報交換する機会があり、又法人の他の施設との合同でのレクレーションを行っている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面会し初回アセスメントを作成するに当たりお困りごと 要望等をお聞きしている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメントを作成するに当たり、家族の方より、お困りごと 要望等よくお聞きしケアプランに反映している		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族 担当者(ケアマネージャー ソーシャルワーカー 看護師)と話し合い連携を取り対応している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶碗を一緒に洗ったり吹いたり、洗濯物をたたんだりできる事を一緒にやっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	平均1か月1回家族の方がお見えになる。その都度状況の説明したり、対応に困った時昔の事等お聞きし介護に反映している。週1回ともに外出されたりする。レクリエーションをする時は参加をお願いしている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り等、家族と共に外出している	入居者の知り合いの方や友人の訪問があれば、職員も歓迎するようにしている。法事や墓参りなど、家族の協力を得て継続できるように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士声かけたりお世話しようとされる。ホールでの席も配慮している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた時はみんなでお参りにいきその後も家族の方に電話する時もあるればかかってきたりし訪ねてこられたりする		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	6か月1回は再度アセスメント表を作成し思いや意向の把握に努め又ミーティングの際毎日ではないが理念にあるその人らしくを忘れずみんなで再確認している	入居時の生活歴や定期アセスメントで、意向などを把握している。暮らしの中での思いや意向を、職員が記録や引き継ぎで共有し、入居後も実現できるようにしている。把握が困難な場合は、家族にも伺い、表情などからくみ取るよう努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで確認 把握に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で現状を確認しミーティングで把握し共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを元に家族の方は来所時または電話で意見をお尋ねし主治医には診察時お尋ねしミーティングで職員間で意見を交換しケアプラン作成している	本人、家族、管理者、スタッフと話し合い、担当者が原案を作成している。その内容をケアの中に反映させ、定期的に評価している。状態変化時には、関係者と話し合いながら新たな計画書を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護をする時に上がる問題点や日々の状況を記録しミーティングで報告共有している		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや2ヶ月1回の医療介護相談を行っている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りや敬老会等レクレーションに地域のボランティアの方に踊りや歌を歌っていただいている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本3か月1回定期受診に付き添い受診す。他科受診の場合も希望の科の受診ができるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診も可能ではあるが、協力医療機関への受診がほとんどである。受診できない場合には、往診を受けたり、歯科などの他科受診も支援している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3人の看護師がおり状態に変化があれば直ちに報告必要に応じ受診する		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時主治医担当部署の看護師やソーシャルワーカーと情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作り必要に応じ本人・家族に説明し家族と同意書を交わしているホームの見取り介護に関して職員も周知しておりホーム全体で方針を共有している	重度化や終末期については、契約時に書面で説明し、同意を得ている。過去にホームでの看取りの希望もあったが、病院へ緊急入院された経緯もある。管理者は、重度化した場合、家族や職員と相談しながら対応するようにしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しホームホーム内の研修会に参加 異常の早期発見につながるように観察している		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回防災訓練を行い(1回は消防署立ち合い)運営推進委員会で非常時に備え協力をお願いしている	定期的に防災訓練、避難訓練、夜間を想定した訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置なども設置され、全職員に災害時の緊急連絡方法や対応を周知している。入居者の重度化に際し職員の対応にも限界があると感じている。避難箇所が統一されておらず、混乱を招くこともある。	現在、入居者が重度化しており、避難誘導に混乱を来す可能性が高い。災害が発生した場合に職員の冷静な判断と対応が求められる。さらなる職員の訓練の積み重ねと、地域の方々の協力も得られることが望まれる。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にその人らしくと掲げ人格を尊重した態度接するように心がけているカルテ面会簿にも工夫し外部に人にわからないように配慮している	毎月、ホームの接遇目標を掲げている。キャリアに関わらず、プライバシーを損ねる言葉使いや態度に気づいた時は、職員同士で注意し合ったり、管理者が朝礼で伝えるなどしている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時の食事やおやつメニューを来たり尿意に合わせて訴えにて排泄介助している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も体調やペースにあわせ無理強せず食事や睡眠時間を考慮している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をといたり化粧水を使用する事を援助している。1日着替えを何回もされるが意思を尊重しあえて言葉かけはしない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食時はできるだけ全員参加していた だきその都度希望食を来ている。その他食事のあとかたず家(お茶碗を洗ったり、拭いたり)食事前後のテーブルを拭いたりしていただいている	入居者の個々の状態に応じ、食事形態を工夫しながら提供している。入居者が重度化するにつれて、調理に参加できなくなるが、一部の入居者はテーブル拭きや下ごしらえなどを行っている。行事ごとの特別なメニューが食事の楽しみとなっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	両を決めできるだけ地被けるように、そのままでは飲まないのでお茶ゼリーやとろみをつけてのんでいただくように工夫している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時 毎食後口腔ケアをし観察している		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や時間毎の排泄介助し、できるだけおむつにせずトイレ内で排泄ができるように心がけている。	職員は、トイレで排泄できるように時間誘導や声かけをしている。また、トイレ内での排泄行為に苦痛を伴わないよう、姿勢保持などを工夫し、排泄の自立支援をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を調整し飲まなくても出るようになったかたもおられ心がけている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴介助は曜日は決まっている。希望があれば対応するようにしている	ユニットごとに入浴曜日を決めているが、入居者のタイミングでいつでも入れるように支援している。また、バスリフトを設置した事により、入居者は安心して入浴を楽しむことができる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠を確認し夜勤者が申し送りをしている。昼夜逆転の方もおられ睡眠薬を処方していただきと薬したり中止したり調整しうまくいっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>病院から内容の説明書きをいただいており、毎食後本人の口に入れてあげ飲み終わるまで観察している。</p>		
50		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居時家族のかたのお話を聞き、観葉植物の手入れや家族と畑の仕事をしていただいている。</p>		
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>ホーム車でドライブしたり外食したりホーム内のテラスでティータイム等楽しんでいる選挙時も外出介助をしている</p>	<p>入居者の外出希望があれば、職員が同行し、外出支援している。定期的なドライブや、外食、福岡タワーへも出かけるなどしている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>おこずかいは全員おわかりしている。個々の支払い領収書(現本)すべてと出納帳(コピー)を家族会及び家族来所持お渡ししている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話をかけたいと希望がある時ダイヤル出来ない時スタッフが取次、かかってきた時も速やかにの取り次いでいる。手紙を出したり受け取ったりの支援はしている</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンやブラインド等光の調整し季節の祭りの飾りつけをし家庭的な雰囲気を作りあげている。電灯も何段階に調節ができるようになっている</p>	<p>ホーム内は、木のぬくもりを感じる作りとなっている。食堂兼居間は、ゆったりと広いスペースで、和室もある。テラスにキウイの木が植えられ木陰となり、果実の収穫や外気浴も楽しめる心地よい場所になっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールに利用者様同士が語らえる場所がある。玄関先にテラスがあり時々茶話会を楽しんでいる</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた家具や仏壇等持ってきていただいている。本人が居心地良く過ごせるように配慮している。	居室には、家具や馴染みの物が持ち込まれている。写真や手作りの物も飾られ、今までの住まいと変わらないようにしている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており 又廊下やトイレに手すりを設けており個々の残存機能を活かした支援をしている。トイレや洗面所がわかるように大きく表示している。部屋の間違ひがある為名前を表示している		